アルゼンチン通信

第10号　2025年05月30日発行(毎月月末発行予定)
JICAシニア海外協力隊2024年1次隊:経営管理
玉東町グローカル2024年03月卒業生　鈴木功二

州政府作成の「労働者の日」のポスター。
デモ集会やデモ行進は見かけませんでした。

・5月1日は労働者の日、メーデーとして、祝日になる国が多いのですが、アルゼンチンも祝日で街中は閑散としていました。5月2日も「観光促進の日」で休日、日本のゴールデンウイークほど長くはありませんが、週末も含めると4連休でした。「観光促進の日」(直訳すると「観光を目的に、働かない日」)は、アルゼンチン独自のようで、世界的に珍しい休日です。法令で定められてはいるものの、全ての労働者に休みを義務付けられてはいない為か、街中は平日と変わらず、ほとんどの店が開いていました。年3日、制定されるようで、今年は8月15日と11月21日も「観光促進の日」です。

5月上旬は、昼の最高気温が30℃を超える日があって夏に戻った日が続きましたが、下旬になると、朝の最低気温が－1℃になる等、急に冬になってきました。

今回は、献血に行ってきたので、日本との違いを紹介します。日本では北海道から沖縄まで日本各地で363回献血しました。

1）献血する場所：公立の血液センターと私立の病院があり、私が訪問したのは血液センターで保健省(日本でいうと厚生労働省の保健所に近いか。)の管轄です。日本では、日本赤十字の血液センターか献血ルームです。

2）献血者の年齢制限：18歳から65歳まで。日本では条件付きですが男女とも16歳から69歳まで。

3）献血の種類：基本的に全血献血。日本では全血献血か成分献血を選択できます。

4）予約：予約できません。(予約なしでも空いていたが。)　日本では予約が推奨されています。

5）血液検査：最初に窓越しで、薬指の側面で血液検査します。指先に針を刺すので痛い。検査結果は判りません。日本では、最初に献血カードを登録。医師の問診後に、献血しない側の腕で血液検査をします。検査結果は、献血アプリに表示されるので、自分の健康管理に役立ちます。

6）問診：医師が問診の結果を献血者の氏名から住所等も含めて全てを手書きします。日本では、氏名等の基本情報はシステムに登録されており、献血者は、健康に関わる情報をシステムに手入力、その入力内容を医師がチェックします。

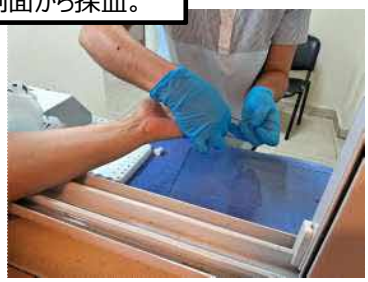
7）医師による問診：血圧と脈拍が測定されるのは日本と同じですが、厳密ではありません。私の問診表を覗き見たら、脈拍は「75」と手書きされていました。日本では自動血圧計等で必ず計測してプリントアウトし、脈拍が100回/分以上あると、献血できません。

8）問診後、カウンターで、注意書きと共に、血液チューブ付きの血液バッグを受取り、献血者が献血室へ運びます。私が胃痛で病院に行った時、注射器と注射液の処方箋を受取り、それを薬局に持って行って、入手して、病院に戻って注射をしてもらう経験をしましたが、同じ発想と思いました。日本では、献血者が血液バックに触ることはなく、また、バーコードでID管理をするので、人間違えをするリスクは少ないです。

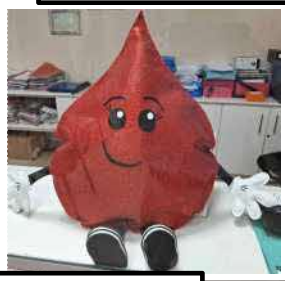
9）献血後に希望者は、血液センターのFacebookに掲載してくれます。日本ではこのようなサービスはありません。 https://www.facebook.com/share/p/195wZV7Y8c/

10）献血証明書が発行され、法令(Ley Nacional de Sangre)により、24時間働かなくてもよいことになっています。日本では、献血アプリに献血した日が表示されますが、証明書はないし、24時間働かなくてもよいことにはなりません。

最初に、窓越しに血液検査、薬指の側面から採血。



アルゼンチンと京都の献血マスコット



血液センター内、
長時間の問診で疲れ果てて医師室から出てきた私。

問診後、カウンターで、注意書きと共に、血液チューブ付きの血液バッグを受取る。

私の左腕の血管は細く、日本では、50%ほどの確率で失敗していましたが(刺しても血液が出てこない)、ここでは太い針を上手に刺してくれました。

血液センターの人が親切にも献血中の私を撮影してくれました。

献血後の水分補給は日本と同じ。

本日の献血に対する表彰状

付き添ってくれた事務所の同僚と記念撮影。同じ写真がFacebookに掲載。

(スペイン語版を同時配信)

鈴木功二